

滋賀県内経済情勢報告


—平成 29 年 1 月判断—

県内経済は、緩やかに持ち直している
(平成 26 年 4 月期以来、11 期ぶり上方修正)

*本報告は、経済指標（28 年 9 月～11 月指標を中心に）等を基に 29 年 1 月における県内経済の概況をとりまとめたもの










先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

【総括判断】

前回（28 年 10 月判断）	今回（29 年 1 月判断）	前回比較	総括判断の要点
持ち直しつつある	緩やかに持ち直している		生産活動は電気機械等で低下しているものの、はん用・生産用・業務用機械等で上昇しているなど緩やかに持ち直しつつある。個人消費は衣料品など一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しており、雇用情勢も改善している。

(注) 29 年 1 月判断は、前回 28 年 10 月判断以降、29 年 1 月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

【各項目の判断】

前回（28 年 10 月判断）		今回（29 年 1 月判断）	前回比較
個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	
生産活動	足踏み状態が続いている	緩やかに持ち直しつつある	
雇用情勢	緩やかに改善している	改善している	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年を下回っている	前年を下回っている	
設備投資	28 年度は前年を上回る計画	28 年度は前年を上回る計画	
企業の景況感	「下降」超となっている	「上昇」と「下降」が均衡している	
企業収益	28 年度は増益見通し	28 年度は増益見込み	
企業倒産	負債金額は前年を上回っているが、件数は前年を下回っている	件数、負債金額とも前年を上回っている	

【主な項目】

個人消費 <一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している>

百貨店・スーパー販売額は、飲食料品が持ち直しているものの、衣料品などが依然として低調となっていることから、全体では前年を下回っている。

乗用車新車登録届出台数は、ハイブリッド車や新型車が好調であり、軽自動車においても回復の兆しがみられることから、全体では前年を上回っている。

生産活動 <緩やかに持ち直しつつある>

鉱工業生産指数で見ると、電気機械などで低下しているものの、はん用・生産用・業務用機械や輸送用機械などで上昇していることから、全体では緩やかに持ち直しつつある。

雇用情勢 <改善している>

有効求人倍率は2か月連続で1.2倍台となっており、新規求人数も前年を上回っているなど、改善している。

住宅建設 <前年を下回っている>

新設住宅着工戸数で見ると、貸家や持家などが減少していることから、全体では前年を下回っている。

公共事業 <前年を下回っている>

前払金保証請負金額で見ると、市町などが減少していることから、全体では前年を下回っている。

設備投資 <28年度は前年を上回る計画>

法人企業景気予測調査（平成28年10～12月期）で見ると、28年度の設備投資は前年を上回る計画となっている。

産業別では、非製造業では前年を下回る計画となっているものの、製造業では前年を上回る計画となっている。

企業の景況感 <「上昇」と「下降」が均衡している>

法人企業景気予測調査（平成28年10～12月期）の景況判断BSIで見ると、現状判断は「上昇」と「下降」が均衡している。

産業別では、非製造業では「下降」超となっているものの、製造業では「上昇」超となっている。

先行きについては、「下降」超の見通しとなっている。

企業収益 <28年度は増益見込み>

法人企業景気予測調査（平成28年10～12月期）で見ると、28年度の経常利益は増益見込みとなっている。

産業別では、製造業、非製造業ともに増益見込みとなっている。

企業倒産 <件数、負債金額とも前年を上回っている>

件数、負債金額とも前年を上回っている。

お問合せ先：大津財務事務所財務課 TEL077-522-6455

Ministry of Finance JAPAN

財務省

(個人消費)

- 食料品については堅調であったが、衣料品については婦人服が特に低調で、客数、客単価ともに前年を下回った。
(小売・大企業)
- 11月は新型車が発売されたほか、キャンペーンによる販促活動を行ったことでハイブリッド車を中心に好調であった。
(小売・中小企業)
- 10月はモデルチェンジ等入替前の最終処分セールにより冷蔵庫やパソコンなどが好調であった。11、12月の売上も前年を上回っており、今期は総じて好調である。
(小売・大企業)

(生産活動)

- 補助金を活用して設備等を更新する顧客が多いことから、納期が年度末に集中しており、足もとではフル稼働生産で対応している。
(はん用機械・大企業)
- 軽自動車税増税による影響は徐々に薄れてきており、11月に販売された新車も好調であることから、フル稼働生産で対応している。
(輸送用機械・中堅企業)
- 欧州向けの出荷は、欧州自体の景気が悪化していることから振るわず、足もとでは生産調整に入っている。
(電気機械・大企業)

(雇用情勢)

- 製造部門の人材が不足しており、他社と派遣労働者の奪い合いを行っている状況であり、高報酬、好待遇の企業へ流れている。
(輸送用機械・中堅企業)
- 加盟店において人手不足の状況が続いており、時給を上げてもなかなか集まらない。特に滋賀県北部において顕著となっている。
(小売・大企業)
- サービス産業全体でパート・アルバイト職員が不足しているほか、当社近隣において、飲食サービス業の新規出店が相次いでいることから、人手不足感が強い。
(運輸・中小企業)
- 非正規社員の募集では応募が少ないため、正規社員の募集に切り替えている企業が見受けられており、正規社員の有効求人倍率の上昇につながっている。
(官公庁)